

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：平成30年12月14日

事業所名：特定非営利活動法人ぶるうみい

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	十分なスペースはあるが、呼吸器、吸引器など一人が持参する荷物も多くそこへスタッフ数名が加わると場所の確保が困難な状況の時もある。スタッフが安全にケアを行える様に道線が確保できる配置を検討している。	はい:22 どちらともいえない:1 わからない:1	荷物の整理、配置、スタッフの道線の確保など、検討しながら、安全かつ快適なスペースとなるよう、話し合っていく。
	2 職員の適切な配置	その日の利用者により、ケアの数が非常に多くなり、人手が足りない時間帯もある。	はい:23 わからない:1	適切な配置をしても、医療ケアの時間帯が重なることにより、フロアの人員が少なくなることがある。利用者が出てくるだけゆったりケアを受け、活動に参加出来るよう、一日の流れを多職種で検討していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	完全バリアフリー化されている。車椅子用トイレにベッドも完備しており、必要に応じ使用している。	はい:21 わからない:3 ベッドや畳の部屋などスペースがあり、過ごしやすい工夫がされている。	今後も利用者が過ごしやすいよう、環境整備していく。利用者の成長に伴い、リフトの導入など設備整備を検討する。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の清掃、換気を心がけ、空気清浄機を使用している。シーツ交換、布団クリーナーによる寝具の清掃を行っている。毎日のメンバーにより、それぞれが活動に参加しやすいような寝具の配置を日々心がけている。	はい:23 わからない:1 とても清潔な印象がある。	さらに清潔を心がけ、利用者にとって心地良く過ごせる空間が作れるよう、検討を重ねていく。アレルギーや部屋の湿度にも配慮していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	多職種で計画書を作成している。デイのスタッフ会議を実施しており、その他、必要に応じて、話し合いの機会を持っている。		今後も利用者一人一人について話し合いの時間をもち、情報共有が出来るよう努めていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在のところ、実施していない。		どのような形で外部評価を得るか、今後、検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	月に一回のカンファレンス後に、社内研修の機会を設けている。外部研修についても参加出来るよう勤務調整を行っている。		今後も積極的に研修に参加し、職員の資質向上を図っていく。
適切	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	健康面に関してはバイタルなどを元に評価し、身体面ではセラピストの評価をふまえ、年齢や環境に応じ、課題を分析した上で計画を立てている。		スタッフ間で情報共有し、保護者からも聞き取りを行い立案していく。多職種のスタッフで話し合うことで、課題に対し客観的に評価していくよう努めている。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
切 な 支 援 の 提 供	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	リハビリ、制作は個別性を重視し、かつ集団活動も適宜組み合わせ計画を作成している。	はい:24 見合った支援計画が作成できている。見が無理なく、挑戦できるような内容になっている。	今後も子どもの状況に応じ、個別性を重視した活動、また、集団活動も取り入れた計画を作成していく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	利用者一人一人の状況、年齢、ニーズ、発達状況に合った計画内容としている。多職種で情報共有し、保護者にも分かりやすく具体的な内容となるよう、記載している。		保護者の意見を聞きながら、本人に合った無理の無い項目を設定していけるよう、スタッフ間で話し合っていく。
適 切 な 支 援 の 提	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	一人一人に合った無理の無い計画となっているため、適切な支援につながっている。必要に応じ、看護師、セラピスト、介護職で話し合いながら支援するよう、心掛けている。	はい:23 わからない:1	今後も多職種間で連携を取り、利用者が心地よく支援が受けられるよう計画を作成しそれを、実施していく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	保育士が中心となり、活動内容を立案しているが、セラピスト、看護師の意見も取り入れている。保育会議を行っており、翌月の活動内容について、話し合っている。		可能な限り、保育士以外の職種も保育会議に参加し、活動プログラムについて話し合っていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は放課後デイに関しては、滞在時間も短く、集団活動が難しい日もありますが、短時間で楽しめるゲーム、個人活動など、内容を工夫している。長期休暇時は、午前中から子ども達が集まるため、幅広い年齢の子どもたちが一緒に活動を楽しんでいる。	はい:23 わからない:1 様々な催しが行われている。	長期休暇を利用し、放課後デイの子どもたちの外出を計画実施していく。放課後等、時間に余裕がない時は個別活動に重点を置くなど工夫している。長期休暇中は、集団活動に重点を置き、異年齢で楽しめる内容の活動もさらに取り入れていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	主に季節を追った活動内容となっている。散歩、畑作業などの屋外活動、制作、ゲームなどの屋内での活動、どちらも充実した内容となっている。また、地域の図書館への外出や、養護学校の作品展見学、バザーへの出店等の地域交流もはかっている。		今後も多くの経験が出来るような活動内容を考えていく。屋内外での活動、集団、個別活動など、年齢に応じ、子どもたちが楽しめる活動を実施できるよう、工夫していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
供 つ ( 続 き )	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	送迎等の関係で、朝の会議を持つのは非常に困難だが、リハビリ、集団、個別活動、入浴などの支援がスムーズに行えるよう、ホワイトボードに一日の流れを書き出し、スタッフ間で随時話し合っている。スタッフ間の連携が取れている事で、急な変更にも対応できている。	予定通りにいかない事も多々あるが、臨機応変に対応していけるよう、スタッフ間のコミュニケーションをしっかりとっていく。可能な時には朝の会議をもつようにする。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	朝と同様、送迎等の関係でデイスタッフ全員が支援終了後に揃うことが困難な日もあるが、一部のスタッフで話し合われた内容は必ず他のスタッフに伝え、情報共有している。	可能な限り、支援終了後に話し合いの場を持ち、情報共有を心掛け、より良い支援につなげていく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	利用者個人の記録ノートに、その日の様子やケア内容を記録している。個人のスケジュールシートを作成しており、変更があった場合には追記している。記録に漏れが生じた場合には、送迎スタッフへ伝言を頼むか、利用者へ電話連絡している。	スタッフ全員がノートに目を通すように心掛け、記録に漏れが生じないように連携していく。それでも生じてしまった場合には送迎スタッフへの伝言、保護者への電話など、必ずその日のうちにご家庭に伝えるようにする。特に支援に変更があった場合はスタッフ間で共有し、検証改善していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	送迎時等にご家族と話し、意見を聞き、半年に一度の見直しを行っている。	六ヶ月ごとに個別支援計画の見直しを行っている。送迎時だけではなく、保護者と話す機会を設ける。
	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	可能な限り、支援会議に参加している。	積極的に支援会議に参加する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	学校での様子を先生から引き継ぎ、保護者の了承を得て学校の連絡ノートに目を通すようにしている。申し出があった場合、学校からの見学を受け入れている。また、他市の療育園の見学会や懇談会に出席し、療育見学し、情報交換を行った。	事業所見学を受け入れるだけでなく、学校参観に出向き、連携を深めていく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	当事業所の訪問看護からのご利用も多く、情報共有している。訪問看護が無いケースの場合は各利用者を通じ、医師からの診療診断書で情報を得ている。	今後も連絡体制の整備に努めていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	4	児童発達支援事業所からのな 行支援のため、保育所や認定こども園、園、学校、特別支援学校(学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	学校送迎時に共有できている。		今後も主に学校との連携が取れるように、話し合う場を設けていくように検討する。 学校見学に出向き、情報共有していく。
	5	放課後等デイサービスからのな 行支援のため、学校を 業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現時点では学校 業児はまだ出ていない。		今後、 業児が出た時は支援内容について情報提供が出来るよう、日々の記録を確実に行っていく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の 機関と連携や、 機関での研修の受 の 進	児童発達支援センターを通じての利用者の関しては個別支援計画の共有、発達の状況に関して電話などで連携している。 児童発達支援センターの研修を受 した。		機関での研修の受 は今後積極的に検討し、参加していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、 園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブ や児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在のところ、保育園、こども園との交流は行っていない。放課後等デイサービスも同様である。	分からない:13 回 :11	今後、 保育園、 園との交流を検討していく。 放課後の子どもたちのそのような交流は時間の関係上、困難かもしれない。
	8	事業所の行事への地域の 営	事業所の行事を、くの 人施設のホールを りて行っている。 行事に はしていないが、 で畑を りており、地域 との交流の機会となっている。	分からない。	今後、行事の形 を検討し、地域に参加していただけるような内容にしていく。 え、事業所前での りなど、現在検討中である。
	1	支援の内容、利用者 担等についてのな	利用者 担に関しては 時、 書または重要事項 書から し、するよう努めているが、十分でないと思われる。 支援の内容については に している。	はい:20 どちらともいえない:3 わからない:1 えていない。	利用者 担について、分かりやすくな ができるよう、考慮していく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を しながらの支援内容のな	計画を しながらの な は出来ていない。 保護者に目を通していただき、な点は指 していただくよう、お いしている。	はい:20 わからない:1 回 :3	保護者と一緒に目を通し、な をするよう、心掛ける。そのために、面談の機会を設けていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への 連携支援	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント トレーニング等の支援の実施	ペアレント・トレーニングは実施していない。	はい:12 どちらともいえない:2 いいえ:2 わからない:8 家族支援プログラムが 分からない。	ペアレント・トレーニングについて、まずはスタッフがしっかり理 解し、保護者支援に けていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日 から保護者との共通理 解の徹底	連絡ノートに、主にセラピストや保育士が発達の状況を記載するようにしている。また、送迎時にその日の様子をお話することで、共通理 解につなげている。	はい:23 わからない:1	今後も保護者とのコミュニケーションをはかり、共通理 解ができるようにし、子どもたちの発達を けていく。
	5 保護者からの子育ての 悩み等に対する相談への適切な対応と必要な 言葉の実施	保護者より相談があった場合、スタッフ間で話し合うなど意見交換し、対応を検討してる。	はい:16 どちらともいえない:3 いいえ:3 わからない:2 半年に一回 、面談などあれ 良いう	まずは、保護者 が 悩みなどを相談しやすい関係作りをする。相談があった場合に、適切な対応が出来るようスタッフ間で日 から情報共有する。
	6 保護者会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会の会は作っていないが、事業所のイベント時に 話し会の機会を作り、保護者同士の交流の場としている。	はい:12 どちらともいえない:5 回 :4 わからない:3	保護者会を作る予定は無いが、今後も保護者同士の交流の機会が持てるよう、検討していく。
	7 子どもや保護者からの 悩みに対する対応体制整備や、子どもや保護者に 及び 悩みがあった場合の かつ適切な対応	現在のところ、 悩みは無い。		悩みがあった場合には、法人 表、理 解者に報 告、スタッフに状況確認の上、 に対応していく。
	8 障害のある子どもや保護者との意 義の通 じや情報伝達のための配慮	掛 けを に行い、子どもたちの 意 義をゆっくりと つ。一人一人のコミュニケーションの手 を理 解し、意 義の通 じが計れるよう、配慮している。意 義通 じの 法をスタッフ間で共有するようにしている。	はい:18 わからない:2 回 :4	今後も、一人一人に応じたコミュニケーション 法を考えていく。 に行い、意 義通 じが図れるように、時間をかけて関わりをもっていく。スタッフの 自の理 解にとどまらないよう、配慮していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動 要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発 信	定期的な会報の発行はしていない。活動の様子は随時、ホームページ、ロ グに 載している。	はい:19 どちらともいえない:1 回 :4	行事予定、連絡体制等の情報についても発 信していけるよう、検討していく。
	10 個人情報の取 扱に対する十分な対応	個人情報、ロ グへの などの 載 については、書面にて利用者に 可を取っている。	はい:17 どちらともいえない:1 わからない:2 回 :4	個人情報の取 扱については、十分に 意 義していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 急時対応 ニュアル、 ニュアル、 症対応 ニュアルの 定と、職員や保護者への 徹底	症対応 ニュアルは 定している。急時対応 ニュアルについては、本年の度重なる 定を える自 害に 対し、 急に作成した。 ニュアルは現在作成中である。	はい:8 どちらともいえない:5 いいえ:1 わからない:6 回 :4	ニュアルの作成と共に、 症、急時対応 ニュアルについても、必要に応じ見直しを行っていくものとする。職員、保護者の に努めていく。
	2 非常 害の発生に備えた、定期的に 難、 出その他必要な訓練の実施	定期的に 難訓練を行っている。	はい:7 どちらともいえない:3 わからない:10 回 :4	現在、 難訓練は 定期であるため、定期的実施していく。現在は 訓練を主に実施しているが、あらゆる 害を 定し、訓練を行い、非常時に備えていく。
	3 を するための職員研修機の確保等の適切な対応	市で開催された の研修に参加し、カンファレンスで報 した。研修の機会は確保されており、 が あった場合は、勤務調整し、参加している。		今後も研修機会が確保できるよう対応していく。
	4 やむを得ず身体 を行う場合における組 的な 定と、子どもや保護者に 事前に十分に ..了 を得た上での 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	車椅子に関しては、ベルトなど保護者に 確認しリスク 理している。 の が予 される場合は、ベッドの にクッションなどをかませ、対応している。医療行 を行う場合は、 みや の のため、数の スタッフで身体を することもあ。計画書にも記載している。		今後も が伴うと 断した場合には、状況に応じて対応していく。
	5 物アレルギーのある子どもに対する 医師の指 書に く適切な対応	子どもの 事に関しては自 で 備されている。アレルギーに関してはご利用開始時に 保護者に記載をお いしており、活動の中でクッ ングをする場合は、その 度、 数のスタッフで確認するようにしている。 医師からの指 書は取っていないが、ケースによっては 検 データをみ せていただいている。		物だけでなく、アレルギーに関しては 意を っていく。年度 には、ケアスケジュールを たにご家族に書いていただくことで、アレルギー も更 できている。
	6 リハット事 集の作成及び事業所 内での共有の徹底	リハットの作成は行っている。 共通の コンで自 に 出来るようになってい。 また、全体会議で必ず報 し、共有の徹底を 図っている。		リハットの事 が こった場合、 細に記録に し、事 につながらないように、会議などで話し合い、分析し、共有を徹底していく。